
竜から妖精へ…

じーく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

竜から妖精へ…

【NZコード】

N5320BA

【作者名】

じーく

【あらすじ】

太古の世界を支配していたのは竜。

そして、2頭の竜が対立していた…

一方は、人を…虫ケラ、害虫としか思えないも…邪念があるたび人を滅ぼしていた。

一方は、人を…人の尊さ、命の大切さ、そして…光を見た。人を知

つ
た

そして… 2頭の竜は対立をした…
そこから始まるのがこの物語…

はい！ フュアリー テイルの一次作です！

上手く表現できないかもですが… がんばりますので… どうか
温かい目で…
更新速度はきっと遅いと思いまス…
そちらもがんばりますので… 気が向いたらのぞいてみてください！

第0話 決別（前書き）

よろしくお願ひします…

4つも投稿し続けるのは無謀ですかね… これはもうひとつ前に、書いてたやつを見つけたので…

思い切って出してみました… !

4つ全部頑張ります！止めずに… ! … 無分？ 茄笑

では！

第0話 決別

「こゝは… 霊峰と呼ばれている場所。

主にそう呼んでいるのは人間達である。

その嶮しき山の頂上では… 2つの影があつた。

影の形からして、人ではない。

それは圧倒的な存在感である。

それらは… 絶対的存在。

人間を支配する存在。

決して抗う事の出来ない存在である。

あまりにも……人間達との力の差があるため、人間をなんとも思っていない。

蟻に似等しい存在……

いや……土地に住まい……その土地の自然を切り開くその姿を見れば……

この星に住まう病原体……害虫。

そうとしか感じられない。

故に、人の世界を滅ぼす事に何も感じない。

そして、積極的に根こそぎやひつとも思わない。

単なる憂き晴らしつで王国をも滅ぼすことだってある。

人間は無数に存在している。

それこそ病原菌のよう… 寄生のよう…

全ては血らが思うがまま…

それらの影が動いた…

一体は翼のようなものを広げていた…

そう…かの存在は…

竜
だ…
ドラゴン

竜が人を支配する世界…

『…なぜその様な事を言つのだ? ゼルティウスよ… 我には理解しがたい…』

一体の黒き竜が翼を広げながらもう片方に問いかける…

片方の竜は何も答えない。

『お前もよく知つておるつ……人間の醜さを……いつの時代も……争つ事しか頭の無い存在……いや頭の悪い害虫だ……』

その竜は続けた。

『そんな害虫を滅ぼして 誰が困るというのだ?』
クズ

そこまで言つたところで…

片方の沈黙を守っていた竜が…話しだした。

『確かに… 貴様が言つ事も正しい、人は 愚かな生き物だ。利己的で残忍で…冷酷で… そんな人間を見てきた。それも事実の一つだ。』

靈峰から下界を見下ろすかのように立つ竜が、

『そうだ… その通り。我を呼ぶのはその邪念… 人の醜い部分が

あるからこそ、それを滅ぼしているだけだ……この星に住まう病原菌を駆逐する為に…な。なぜ… 同じ支配者ドミナントであるお前がわが行いを否定するのだ?』

全く理解できない、

そつ言わんばかりに言った。

『俺は…俺たちは人の影…・闇の部分しか見てなかつた事だ…人は尊さを持っている。思いやりを…・優しき心を…・持つていて。俺は命の大切さを知つた、それだけだ。』

そう言つと…もう一体の竜が反応した。

『だから…・・・あの時 止めたのか… 自らを盾にしてまで。』

そう言つと… ゼルディウスはその巨体では不可能だと思えるほど静かに立ち上がった。

『闇と光… 相対する者はいつの時代も存在する。俺は彼らを見たくなつたんだ。だから… 無闇に滅ぼす貴様を止めた。』

そして、黒き竜の方をむく。

『害虫を……見るだと?』

『やつ言つてくれるな……彼らは害虫などではない、貴様は一部しか見て無さ過ぎなのだ。』

緊迫した空気が流れ出る……

そのにらみ合ひは辺りに影響を及ぼす。

天は叫び……

大地は割れ……

まるで……世界が震えているようだ……

下界の人間達は恐怖に震えている……

人間 side

2体の竜がにらみ合つてゐるとき…

下界では大災害に等しいほどの衝撃が襲つていた。

町は揺れ…

巨大な王国の防壁には日々が入る。

天は怯えているような…怒り狂つてゐるかのような…

雷を大地に降り注いでいる。

そして、ある山では大噴火が起きる…

そしてその火山岩、溶岩は辺りを燃やし尽くす…

「…」

1人の男が…空を見上げていた。

その先には…靈峰がある場所だ。

「また…1つの時代が終わるというのか…」

そう呟く…

「あれは…絶対的な存在…抗う事は不可能なんだ…
ないというなら…また…長い旅が始まる…」

彼らが止め

その男は嘆いていた。

彼ら人間達を助けてやりたい…

せめて、争いの影響が少ない場所へ…

この災害の正体は恐らしく、

絶対的存在たちの争い…

以前聞いたときは戸惑つた。

あの存在が攻撃を仕掛けたとき、もう一體がそれを防いでいた。

この田でその瞬間を見た。

「クズとしか思ってない人間を…救う… そんなことあるのか
と思ったけど…まあ 僕もいえないが。」

この男は命などかけらも想つちゃいなかつたが命の尊さを知つた…

・

それが…彼らの身に起きても不思議ではない…

「ありえない事はありえない… 信じ固くともそれはありえる事実・
・・か・・・」

そして、街から背を向ける。

「願わくば……あの争いに……巻き込まれない事を……願うよ……僕は
……また会えなかつた……」

そつまつて歩き出す…

「「」の時代でも……会えなかつた……」

そして空を再び見上げる…

「会いたいよ……会いたい……」

その男が一步・・・

歩くたびに……生物……が死滅していく…

これは呪か・・・

「ナツ……」

下界が恐怖している。.

(これ以上は…駄目だ。)

やつ語ると…

殺氣・怒氣を止める…

『なんだ… 気が変わった… とにかく?』

黒毛龍はやう聞いていた。

『違うな…俺はこんな事をする為にここに来たわけではない。
俺たちの争いは世界を滅ぼしてしまつ。そんなことは御免だ。』

やつ語つて翼を広げる…

『あくまで…舊時代の味方…・・・ヒトのだな。』

その黒き龍はそう呟いた。

その皿は…少し、悲しみのよつな… 切ないよつな…

そんな感情が読み取れる。

『ああ、俺はお前の前から姿を消す… もへ、体いつとせ無い。』

やつ…

『もし… 年月がたひ…再びお聞える時 お前が…人を襲つてい
るのを見たらなら…・・・』

その皿は…黒き龍と回り…少し悲しみのよつなものが含まれている。

『俺は お前を止める。必ずな… 人の命を懸けてでも…』

そして… 黒き龍を見る。

『…………』

納得は出来ない……してないが……

その目を見れば覚悟の程は伝わる。

何を言つても……自分の真意を変えたりはしない。

確信できるのはなぜか……

それは自身がそうだからだ。

『ふん……約束は出来ない。今も我は奴らを害虫としか思えんのでは、……が、同族である貴様と敵対するのも複雑だ。』

そういつて、黒き龍は飛びあがる。

『貴様ともう合間見えることが無ことを願つじよへ。』

そして、飛び去つていった。

『…せらばだ、アクノロギア…』

そう言って

ゼルディウスも姿を消した…

第0話 決別（後書き）

ありがとうございました！

はい…完全オリジナル展開です！

大体アクノロギアの口調知らないし

こんなのは暴れたらどうなるのかわからんないし

原作では遊ぶ程度で島吹つ飛びほどのギャオオ！したし

はい！ きとーに考えました

駄文ですが…これからよろしくお願いします！

ガンバリマス！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5320ba/>

竜から妖精へ…

2012年1月14日19時54分発行